

## 資料 3

### 令和元年台風19号による被害状況

令和元年台風第19号(一般被害)

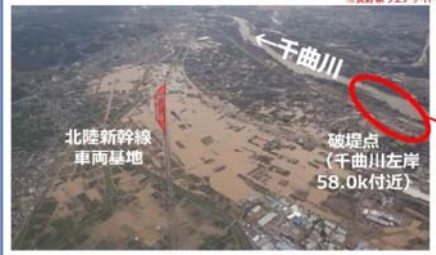
■総論

○ 令和元年台風第19号の豪雨により、極めて広範囲にわたり、河川の氾濫やがけ崩れ等が発生。これにより、死者90名、行方不明者9名、住家の全半壊等4,008棟、住家浸水70,341棟の極めて甚大な被害が広範囲で発生。

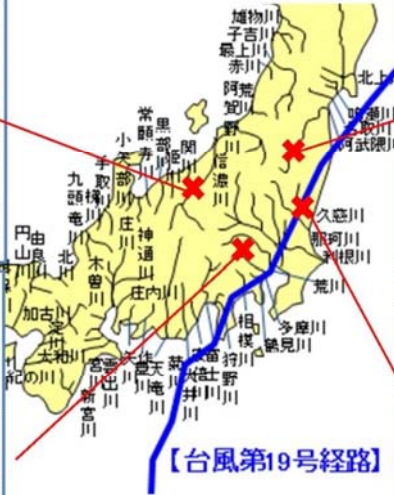
※消防庁「令和元年台風第19号による被害及び消防機関等の対応状況(第32報)」(令和元年10月28日 6:30現在)

信濃川水系千曲川(長野県長野市)

堤防の決壊等により、約1,360haが浸水。市全体で床上浸水3,395戸、床下浸水1,781戸(11/8※)の家屋被害等が発生。



国管理河川で約25,000haの浸水



阿武隈川系阿武隈川(福島県須賀川市ほか)

堤防の決壊等により、約3,400haが浸水。市全体で床上浸水868戸、床下浸水288戸(11/5※)の家屋被害等が発生。



荒川水系越辺川、都幾川(埼玉県川越市ほか)

堤防の決壊等により、約2,220haが浸水。市全体で床上浸水329戸、床下浸水72戸(11/1※)の家屋被害等が発生。



久慈川水系久慈川、里川(茨城県常陸大宮市ほか)

堤防の決壊等により、約1,650haが浸水。市全体で床上浸水475戸、床下浸水87戸(10/15※)の家屋被害等が発生。



令和元年10月 台風第19号の被害に対する調査

決壊が発生した堤防区間の整備等の状況(国管理河川)

■洪水による被害と状況

○ 台風第19号では、各地で観測史上最大雨量を観測するなど、記録的な洪水となり、国管理河川の7河川12箇所では堤防が決壊し、大規模な浸水被害が発生。  
 ○ 決壊箇所を含む一連区間では、河川整備計画に基づき、治水安全度の向上を図ってきたが、決壊が発生。決壊箇所全てで越水が発生していた。

決壊箇所における堤防整備等の状況

決壊箇所は全て越水

No.	水系名	河川名	左右岸	距離標	市町村(地先)	堤防整備状況	危機管理型ハード	越水(有・無)
1	鳴瀬川	吉田川	左岸	20.9k	宮城県黒川郡大郷町柏川地先	完成	未	有
2	阿武隈川	阿武隈川	左岸	98.6k	福島県須賀川市浜尾地先	完成	未	有*
3	久慈川	久慈川	右岸	25.5k	茨城県常陸大宮市下町地先	暫定	未	有*
4	久慈川	久慈川	左岸	25.5k	茨城県常陸大宮市富岡地先	暫定	未	有
5	久慈川	久慈川	左岸	27.0k	茨城県常陸大宮市塩原地先	暫定	未	有
6	那珂川	那珂川	右岸	28.6k	茨城県那珂市下江戸地先	暫定	未	有
7	那珂川	那珂川	左岸	40.0k	茨城県常陸大宮市野口地先	暫定	未	有
8	那珂川	那珂川	右岸	41.2k	茨城県常陸大宮市下伊勢畑地先	暫定	未	有
9	荒川	越辺川	右岸	0.0k	埼玉県川越市平塚新田地先	暫定	未	有
10	荒川	越辺川	左岸	7.6k	埼玉県東松山市正代地先	暫定	未	有
11	荒川	都幾川	右岸	0.4k	埼玉県東松山市早俣地先	暫定	未	有
12	信濃川	千曲川	左岸	58.0k	長野県長野市穂保地先	完成	未	有

\*堤内(住宅地側)から堤外(河川)側への越水 6

数値等は暫定版 台風第19号による被害とその特徴等

○極めて広範囲な豪雨により、関東・東北地方を中心に計140箇所堤防が決壊するなど甚大な被害

台風第19号による降雨等の特徴

○過去最多の大雨特別警報発表(1都12県) ○広範囲で観測史上1位の雨量を記録 (降り始めから数日間の雨量が100年～150年に1回レベルを記録 長野川台風に対応する過去最大級の雨量(1958年発生(犠牲者約1,200名))

発生した事象(ファクト)

決壊等による甚大な浸水被害

○本川・支川ともに急激に水位が上昇し、192もの河川で氾濫危険水位を超過。河川を流下できる量を超え、71河川140箇所堤防が決壊し、甚大な浸水被害が発生(利根川、荒川等の大河川でも決壊寸前)

(浸水面積2万3,000ha以上、死者90名、行方不明者9名、住家浸水70,341棟)

特に、『川幅が狭い区間や堤防未整備区間での氾濫が多発』『本川の水位上昇(バックウォーター)によって支川が氾濫』『上流区間では流速の早い流れによる連続決壊も発生』

○上流からの多量の土砂が下流河川に堆積し、河道埋塞等による『土砂・洪水氾濫』も含めて、計805件もの土砂災害が発生 (台風災害で最大級の件数)

信濃川水系千曲川(長野県長野市)

- ・左岸の決壊で長野市穂保地区を中心に浸水
- ・新幹線車両基地も浸水、交通途絶で甚大な影響

千曲川 左岸58.0% (長野市穂保地区) 周辺

阿武隈川水系内川流域(宮城県丸森町)

- ・豪雨により上流域から流出した多量の土砂が下流の河川に堆積し、河床上昇・河道埋塞による氾濫(いわゆる土砂・洪水氾濫)が発生

五股谷川

内水氾濫による浸水被害、決壊等による氾濫水の長期停滞

○下水道施設の計画を上回る降雨に加え、河川水位の上昇により、降った雨の排水不良による氾濫(内水氾濫)が各地で発生 ⇒大都市部での内水氾濫により、社会経済活動に多大な影響

○河川堤防の決壊等に伴い、国管理河川だけでも2万5,000haに及ぶ大量の氾濫水が長期停滞

⇒要配慮者施設などの孤立化が発生。浸水解消に最長で約10日を要した

川崎市丸森地区(約45ha浸水) 川崎市宮内地区(約11ha浸水)

川崎市では、多摩川の水位上昇に伴う排水不良や逆流等で内水氾濫が発生

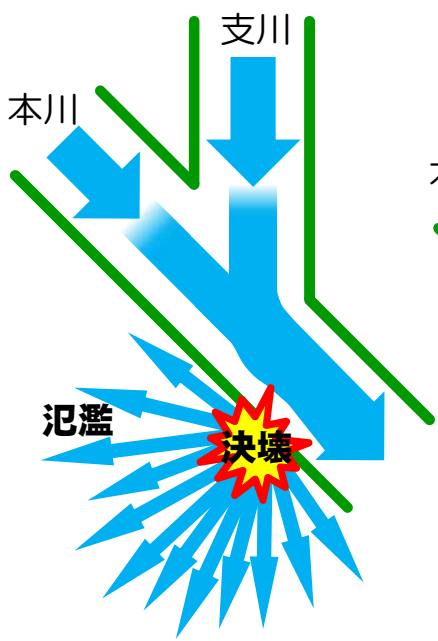
全国から排水ポンプ車を投入24時間体制で排水を実施

避難等につながる情報の提供、事前のリスク周知

- マスコミやSNS等、様々な媒体での情報提供により、事前の備えや避難を喚起
- 大都市部を含む広域エリアから河川情報等へのアクセスが集中し、一時的に不安定化
- 避難の遅れによる人的被害発生(高齢者等)

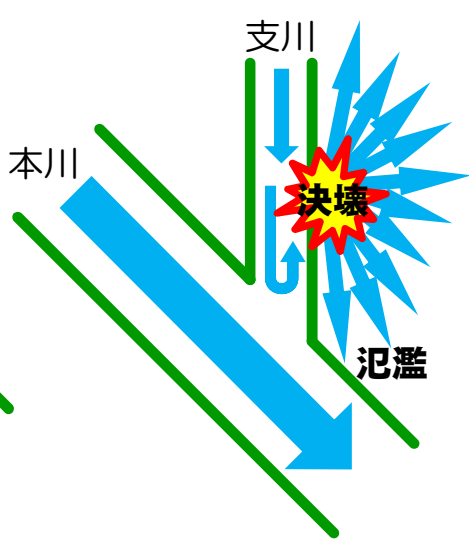
【参考】堤防決壊イメージ

本川と支川の合流部下流側が氾濫



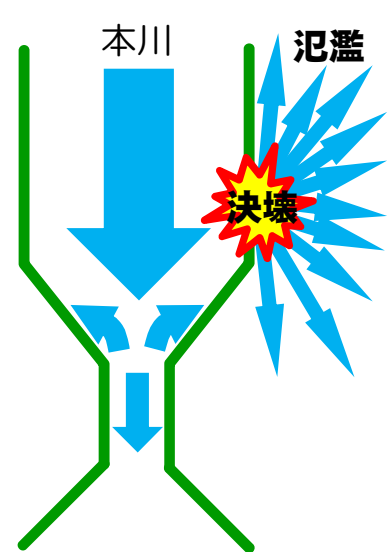
本川と支川の流量のピークが同じタイミングで合流した場合、合流後の水位が上昇する。

支川側が氾濫



本川の流量が大きい場合、支川の水が本川側へ流れ込めないことから、支川の水位が上昇する。

本川狭窄部の上流側が氾濫



本川に狭窄部がある場合、下流に流下し難くなることから、狭窄部上流の水位が上昇する。



◆現地状況写真<千曲川>

しなのがわ ちくまがわ うえだし すわがた  
 信濃川水系千曲川 長野県上田市諏訪形地先(左岸104.0K) 被災～復旧状況

国土交通省  
 北陸地方整備局

- ・10月13日(日) 8:33 24時間体制で緊急復旧工事に着手。
- ・10月28日(月) 川の流れを変える瀬替工が完成し、被災箇所への水当たりを弱めた。
- ・11月 3日(日) 堤防が完成。



◆現地状況写真<千曲川>

しなのがわ ちくまがわ うえだし すわがた  
 信濃川水系千曲川 長野県上田市諏訪形地先(左岸104.0K) 瀬替工の様子

国土交通省  
 北陸地方整備局

- ・10月28日(月) 川の流れを変える瀬替工が完成し、被災箇所への水当たりを弱めた。



2019.10.17 16時頃



2019.10.22 12時頃 (増水時)



2019.10.27 12時頃



2019.11.3 16時頃